(19)日本国特許庁(JP)　(12)登録実用新案公報(U)　(11)実用新案登録番号
実用新案登録第3143518号
(U3143518)
(45)発行日　平成20年7月24日(2008.7.24)　(24)登録日　平成20年7月2日(2008.7.2)

(51)Int.Cl.　F I
A01G 9/02 (2006.01)　A01G 9/02 101J

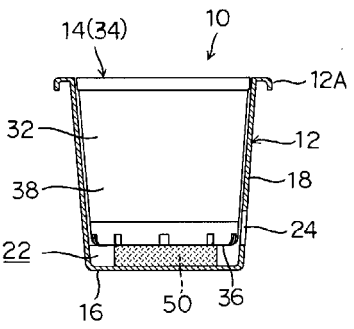
評価書の請求 未請求　請求項の数 3　OL　(全 11 頁)

(21)出願番号　実願2008-3134(U2008-3134)
(22)出願日　平成20年5月15日(2008.5.15)

(73)実用新案権者　595105799
小内　敬一
群馬県みどり市笠懸町鹿３７３９－４
(74)代理人　100098361
弁理士　雨笠　敬
(72)考案者　小内　敬一
群馬県みどり市笠懸町鹿３７３９－４

(54)【考案の名称】二重植木鉢及び二重植木鉢用外鉢

(57)【要約】　(修正有)
【課題】植物への水やり期間を延長することができ、且つ、外面を掃除しなくても綺麗な植木鉢で市場に出荷することができる二重植木鉢及び二重植木鉢用外鉢を提供する。
【解決手段】上面が開口した外鉢１２と、該外鉢１２の上面開口（外鉢開口部１４）より当該外鉢１２内に挿脱自在に挿入される内鉢３２と、外鉢１２の底壁（外鉢底壁１６）上に設けられ、毛細管現象による保水と給水機能を奏する保水部材５０とを備える。外鉢１２は、側壁（外鉢側壁１８）の下部で、底壁（外鉢底壁１６）より上方の位置に形成された排水口２４を有する。内鉢３２は底壁（内鉢底壁３６）に透孔を有し、外鉢１２の上面開口（外鉢開口部１４）より挿入されて透孔が位置する内鉢３２の底壁（内鉢底壁３６）が保水部材５０に当接し、その状態で、当該内鉢３２の底壁（内鉢底壁３６）は、外鉢１２の底壁（外鉢底壁１６）より上方に支持される。
【選択図】図２



【実用新案登録請求の範囲】
【請求項１】
上面が開口した外鉢と、該外鉢の上面開口より当該外鉢内に挿脱自在に挿入される内鉢と、前記外鉢の底壁上に設けられ、毛細管現象による保水と給水機能を奏する保水部材とを備え、
前記外鉢は、側壁の下部であって、前記底壁より上方の位置に形成された排水口を有すると共に、
前記内鉢は底壁に透孔を有し、前記外鉢の上面開口より挿入されて前記透孔が位置する前記内鉢の底壁が前記保水部材に当接し、その状態で、当該内鉢の底壁は前記外鉢の底壁より上方に支持されることを特徴とする二重植木鉢。
【請求項２】
前記外鉢は、前記底壁上面の周縁部、若しくは、底壁上方の前記側壁内面に複数突設された支持部を有し、
前記保水部材は弾性を有し、その上面は前記支持部の上端と同一の高さ、若しくは、それ以上の高さとされ、且つ、前記排水口の下縁は、前記支持部の上端と同一の高さ、若しくは、その付近に位置することを特徴とする請求項１に記載の二重植木鉢。
【請求項３】
二重植木鉢を構成するための内鉢が挿脱自在に挿入される開口を上面に有し、
底壁上面の周縁部、若しくは、底壁上方の側壁内面に複数突設され、前記内鉢を支持するための支持部と、
前記側壁の下部であって、前記底壁より上方の位置に形成された排水口と、
前記底壁上に構成され、毛細管現象による保水と給水機能を奏する弾性を有した保水部材を設けるための保水部材収納部とを備えたことを特徴とする二重植木鉢用外鉢。
【考案の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本考案は、外鉢とこの外鉢内に挿脱自在に内鉢を挿入可能に構成して、植物を育成するのと出荷とを好適に行うことができる二重植木鉢及び二重植木鉢用外鉢に関するものである。
【背景技術】
【０００２】
従来、植木鉢内に培養土を収容して花などの植物が植え付けられ、市場に出荷されて小売店の店舗に並べられている。植物が市場に出荷されて小売店の店舗に並べられるまでの期間に水が不足すると、植物は萎れたり、枯れたりしてしまうため植物には頻繁に水やりが行われていた。係る植物が市場に出荷されて小売店の店舗に並べられるまでの期間に水不足により植物が萎れたり、枯れたりしてしまうのを防止することができる植木鉢が提案されている。
【０００３】
この植木鉢は、植木鉢本体と受け皿とスポンジ状の給水体（保水部材）とから構成されている。そして、受け皿内に保水部材を収納した後、開口部上方より植木鉢本体の嵌合部が嵌合され、この状態で受け皿に設けられた注水口より受け皿内に水が注入される。受け皿内に注入される水量は、注水口から水位を確認し、受け皿内の水量が適当となったところで止めていた。
【０００４】
このように植木鉢を構成することにより、受け皿内の水は保水部材の毛細管現象により植木鉢本体の底部まで上昇し、植木鉢本体内の培養土へ給水される。これにより、植木鉢の植物が枯れることなく長期間育成できるように構成していた。また、植木鉢で植物を育成している過程では注水口より水の減り具合を視認し、水量が少なくなったら受け皿内の水量が適当となる所まで、注水口より水を補給していた（特許文献１参照）。
【特許文献１】実用新案登録番号第３０２００９７号公報

【考案の開示】
【考案が解決しようとする課題】
【０００５】
しかしながら、植木鉢の外面は植物を育成する際、水やりによる水の跳ねや、雨などが跳ねることによって土や埃で汚れてしまう。そこで育成した植物を出荷する際は、汚れた植木鉢の外面を綺麗に洗った後、植物が枯れることなく長期間育成できるように植木鉢本体の下部に保水部材が収納された受け皿を嵌合して、市場に出荷していた。このため、植物が育成された植木鉢を出荷する際、その準備に多大な手間が掛かっていた。
【０００６】
本考案は、係る従来技術の課題を解決するために成されたものであり、植物への水やり期間を延長することができ、且つ、外面を掃除しなくても綺麗な植木鉢で市場に出荷することができる二重植木鉢及び二重植木鉢用外鉢を提供することを目的とする。
【課題を解決するための手段】
【０００７】
即ち、本考案の二重植木鉢は、上面が開口した外鉢と、該外鉢の上面開口より当該外鉢内に挿脱自在に挿入される内鉢と、外鉢の底壁上に設けられ、毛細管現象による保水と給水機能を奏する保水部材とを備え、外鉢は、側壁の下部であって、底壁より上方の位置に形成された排水口を有すると共に、内鉢は底壁に透孔を有し、外鉢の上面開口より挿入されて透孔が位置する内鉢の底壁が保水部材に当接し、その状態で、当該内鉢の底壁は外鉢の底壁より上方に支持されることを特徴とする。
【０００８】
また、請求項２の考案の二重植木鉢は、上記に加えて、外鉢は、底壁上面の周縁部、若しくは、底壁上方の側壁内面に複数突設された支持部を有し、保水部材は弾性を有し、その上面は支持部の上端と同一の高さ、若しくは、それ以上の高さとされ、且つ、排水口の下縁は、支持部の上端と同一の高さ、若しくは、その付近に位置することを特徴とする。
【０００９】
また、請求項３の考案の二重植木鉢用外鉢は、二重植木鉢を構成するための内鉢が挿脱自在に挿入される開口を上面に有し、底壁上面の周縁部、若しくは、底壁上方の側壁内面に複数突設され、内鉢を支持するための支持部と、側壁の下部であって、底壁より上方の位置に形成された排水口と、底壁上に構成され、毛細管現象による保水と給水機能を奏する弾性を有した保水部材を設けるための保水部材収納部とを備えたことを特徴とする。
【考案の効果】
【００１０】
本考案によれば、上面が開口した外鉢と、該外鉢の上面開口より当該外鉢内に挿脱自在に挿入される内鉢と、外鉢の底壁上に設けられ、毛細管現象による保水と給水機能を奏する保水部材とを備え、外鉢は、側壁の下部であって、底壁より上方の位置に形成された排水口を有すると共に、内鉢は底壁に透孔を有し、外鉢の上面開口より挿入されて透孔が位置する内鉢の底壁が保水部材に当接し、その状態で、当該内鉢の底壁は外鉢の底壁より上方に支持されるので、例えば、未使用の外鉢を用意し、内鉢が保水部材に当接、若しくは、保水部材が５～１０％圧縮された時点でそれ以上落下しないような形状に外鉢と内鉢の形状を構成すれば、保水した保水部材を外鉢内に収納してその上に植物が育成された内鉢を挿入することにより、二重植木鉢で育成される植物への水やり期間を大幅に延長することができる。また、内鉢を綺麗に洗わなくても大まかに汚れを落とすだけで植物が植えられた外観の綺麗な二重植木鉢とすることができる。従って、多大な手間も掛からず、植木鉢を洗わなくても植物が植えられた綺麗な外観の、二重植木鉢のままで消費者に渡すことができるようになるものである。
【００１１】
また、請求項２の考案によれば、上記に加えて、外鉢は、底壁上面の周縁部、若しくは、底壁上方の側壁内面に複数突設された支持部を有し、保水部材は弾性を有し、その上面は支持部の上端と同一の高さ、若しくは、それ以上の高さとされ、且つ、排水口の下縁は

、支持部の上端と同一の高さ、若しくは、その付近に位置するので、外鉢内に挿入した内鉢の底壁が支持部に当接した際、内鉢の底壁面に保水部材の弾性力で圧接させることができる。これにより、保水部材を外鉢の底壁面に密着させることができる。また、外鉢１２内に給水した水を、保水部材の毛細管現象により底壁に有した透孔を介して内鉢にて育成されている植物に給水することができる。従って、植物が萎れたり、枯れたりしてしまう不都合を、長期間効果的に防止することができるようになるものである。

【００１２】

また、請求項３の考案によれば、二重植木鉢用外鉢は、二重植木鉢を構成するための内鉢が挿脱自在に挿入される開口を上面に有し、底壁上面の周縁部、若しくは、底壁上方の側壁内面に複数突設され、内鉢を支持するための支持部と、側壁の下部であって、底壁より上方の位置に形成された排水口と、底壁上に構成され、毛細管現象による保水と給水機能を奏する弾性を有した保水部材を設けるための保水部材収納部とを備えたので、例えば、未使用の外鉢の保水部材収納部内に水を含ませた保水部材を入れて、その上に植物が育成されている内鉢を挿入するだけで、保水部材を支持部まで圧縮させることができる。これにより、保水部材を内鉢の底壁下面に圧接させることができるので、外鉢内に給水した水を、保水部材の毛細管現象により底壁に有した透孔を介して内鉢にて育成されている植物に給水することができる。また、二重植木鉢で育成されている植物への水やり期間が延長されてしまった場合でも、水を保水部材に保水しておけるので、植物が萎れたり枯れたりしてしまう不都合を長期間防止することができる。従って、従来のように、外鉢に受け皿を嵌合させる多大な手間も掛からず、また、内鉢を綺麗に洗わなくても大まかに汚れを落とすだけで、植物が育成された綺麗な外観の二重植木鉢を市場に出荷することができるようになるものである。

【００１３】

また、外鉢には保水部材収納部を設けているので、外鉢内に挿入した内鉢を支持部に当接させた状態で、当該内鉢の底壁と外鉢の底壁との間に保水部材を収納することができる。これにより、保水部材に確実に保水させることができ、内鉢内で育成されている植物に、保水部材から水を吸い上げさせることが可能となるので、植物が萎れたり枯れたりしてしまう不都合を長期間防止することができるようになるものである。

【００１４】

特に、内鉢に例えば廉価なポリポット等を使用した場合でも、外観の綺麗な外鉢に挿入することにより、植木鉢の外観を綺麗に見せることができる。これにより、ポリポットで育成した植物を当該ポリポットから出さずにそのまま使用することができるので、ポリポットから出して一般の植木鉢に植え換える手間を省くことができ、然も、植え換える際根崩れして植物が萎れたり枯れたりしてしまう不都合を確実に防止することが可能となる。従って、二重植木鉢の利便性を極めて向上させることができるようになるものである。

【考案を実施するための最良の形態】

【００１５】

本考案は、植物が萎れたり枯れたりしてしまうのを防止し、且つ、植木鉢の外面汚れを迅速に処理することを最も主要な特徴とする。植物が萎れたり枯れたりしてしまうのを防止し、且つ、植木鉢の外面汚れを迅速に処理するという目的を、出荷前に内鉢を外鉢内に入れて二重植木鉢にすることで実現した。

【実施例１】

【００１６】

次に、図面に基づき本考案の実施の形態を詳述する。図１は本考案の一実施例を示す二重植木鉢１０の正面図、図２は同図１の二重植木鉢１０の縦断側面図、図３は同図１の二重植木鉢１０の平面図、図４は本考案の二重植木鉢１０を構成する外鉢１２の正面図、図５は同図４の二重植木鉢１０を構成する外鉢１２の下面図、図６は同図４の二重植木鉢１０を構成する外鉢１２の平面図、図７は同図４の二重植木鉢１０を構成する外鉢１２の縦断側面図をそれぞれ示している。

【００１７】

本実施形態における二重植木鉢１０は、図１、図２、図３に示すように、シクラメンや紫陽花或いは他の木や草花などの植物を育成するための内鉢３２と、この内鉢３２が挿入される外鉢１２と、内鉢３２と外鉢１２との間に挿入される保水部材５０とから構成されている。該内鉢３２と外鉢１２は何れも不透明な合成樹脂などにより成形されている。外鉢１２は、図４、図５に示すように植木鉢として商品価値の高い綺麗な色や形状でできている。

【００１８】

外鉢１２は、上面を開口して下部には外鉢底壁１６を有し、周囲に外鉢側壁１８を備えた有底円筒形に形成されると共に、この外鉢側壁１８は、下方に行くに従って小径となるテーパー形状に形成されている。外鉢１２には、上面の外鉢開口部１４周囲に幅約１３ｍｍの鍔部１２Ａが一体に成形されている。即ち、外鉢１２は、外鉢開口部１４周囲（鍔部１２Ａを除く）の外径約１５５ｍｍ、外鉢底壁１６部分の外径約１２５ｍｍ、高さ約１５６ｍｍに形成されると共に、この外鉢底壁１６には従来の一般的な植木鉢のように、外鉢１２の内外を連通する貫通孔を有していない。

【００１９】

また、外鉢側壁１８には幅約２７ｍｍ、高さ約３５ｍｍの排水口２４が形成されており、この排水口２４は外鉢１２（外鉢側壁１８）の内外を貫通している。この排水口２４の下縁は、後述する支持部２０の上縁に位置して、そこから上方（外鉢開口部１４方向）に形成されている。この場合、外鉢１２内に入れた水が、排水口２４の下縁よりも多い場合には、この排水口２４から外鉢１２の外部へ溢れ出るように構成されている。この排水口２４により、内鉢３２内で育成されている植物の根が水に浸されたままとなって腐らないように構成されている。

【００２０】

詳しくは、排水口２４は、外鉢側壁１８の下部で、支持部２０の上縁から上方へ形成され、この排水口２４によって外鉢１２内の水を外部に排水できるように構成されている。即ち、排水口２４の下縁は、支持部２０の上端と同一の高さ、若しくは、その付近に位置し、外鉢１２内の下部に水が溜められる構造になっている。即ち、外鉢１２は、排水口２４より下に水が溜められるようになっている。尚、排水口２４の上縁は湾曲形状に形成されている。

【００２１】

また、外鉢１２には図６、図７に示すように、外鉢底壁１６に複数の支持部２０が外鉢開口部１４方向に突設（実施例では、外鉢１２の円周方向に略等間隔で支持部２０を３箇所突設）されている。この支持部２０の下部は外鉢底壁１６と一体に成形されると共に、一側は外鉢側壁１８の内面と一体に成形されている。該支持部２０は、高さ約１７ｍｍ、厚さ約１．７ｍｍに形成されると共に、外鉢側壁１８から中心方向に向かって約１６ｍｍ延在している。そして、各支持部２０を除いた外鉢１２の底部に、前記保水部材５０が収納される保水部材収納部２２が設けられている。

【００２２】

該保水部材５０は、弾性を有した例えばスポンジ（ウレタンフォーム）にて構成されており、縦横約８０ｍｍの方形で厚さ約２０ｍｍに形成されると共に、吸水機能を有し、所定量の水を保水できるように構成されている。該保水部材５０は、前記保水部材収納部２２に収納可能な大きさに形成されると共に、前記支持部２０の高さ（１７ｍｍ）よりも厚い厚さにて構成されている。即ち、保水部材５０の上面は、支持部２０の上端と同一の高さ、若しくは、それ以上の高さにて構成され、内鉢底壁３６で支持部２０の上端まで圧縮されるように構成されている。

【００２３】

そして、保水部材５０は、当該保水部材５０が外鉢１２の保水部材収納部２２に収納され、外鉢１２内に内鉢３２が挿入された状態で、厚さが所定寸法弾性収縮して、内鉢底壁３６に圧接できるように構成されている。該保水部材５０は、培養土が入れられ、植物が育成されている内鉢３２により容易に弾性収縮すると共に、内鉢底壁３６を所定の圧力で

押圧する弾性を有している。即ち、保水部材５０は、上面が内鉢底壁３６の下面に圧接し、外鉢１２の排水口２４より下に溜められた水を吸い上げて、毛細管現象で内鉢底壁３６まで上昇させ、内鉢３２内の培養土（図示せず）、及び、植物の根に給水できるようになっている。

【００２４】

一方、前記内鉢３２は、図８に示すように上面を開口して下部に内鉢底壁３６を有し、周囲に内鉢側壁３８を備えた有底円筒形に形成されると共に、この内鉢側壁３８は、下方に行くに従って小径となるテーパー形状に形成されている。内鉢３２は、当該内鉢３２が外鉢１２内に挿入され、内鉢側壁３８が外鉢１２内の支持部２０上縁に当接した状態で、内鉢３２の上縁は外鉢１２の上縁と略面一、若しくは、外鉢１２の上縁よりも所定距離下方に位置する寸法にて構成されている。これにより、内鉢３２が外鉢１２内に挿入された二重植木鉢１０状態で、外部から内鉢３２が視認できず、二重植木鉢１０の外観を綺麗に見せることができるように構成している。

【００２５】

即ち、内鉢３２の上面内鉢開口部３４周囲には鍔部は形成されず、内鉢底壁３６には内鉢３２の内外を貫通する複数の透孔４０が形成されている。また、内鉢３２は、前述した如き外鉢１２内に挿入して使用するため、外観は消費者に視認されない。このため、内鉢３２は、商品価値が低く綺麗な色や形状でなくても良く、外鉢１２に対して大幅に廉価なものとされている。

【００２６】

そして、透孔４０は、図９に示すように、内鉢底壁３６中心近傍から放射状に形成されると共に、円周方向に略等間隔で１０箇所形成されている。この透孔４０は、内鉢底壁３６の中心から放射方向外側に約１５ｍｍ離間し、その位置から内鉢側壁３８まで延在し、更にそこから内鉢側壁３８を内鉢開口部３４方向に約１２ｍｍ延在した位置まで形成されている。

【００２７】

また、透孔４０は、内鉢底壁３６中心側を幅約４ｍｍ、内鉢側壁３８方向に行くに従って拡開し、内鉢開口部３４方向に約１２ｍｍ延在した箇所で幅約７ｍｍの形状に形成されている。尚、透孔４０は、内鉢底壁３６中心側を幅約４ｍｍ、内鉢開口部３４方向を幅約７ｍｍの形状に形成しているが、透孔４０の形状はこれに限られず、内鉢底壁３６及び内鉢側壁３８の内鉢底壁３６近傍に角穴、丸孔、楕円孔、多角形孔、或いは、それらを混合した透孔を形成しても差し支えない。

【００２８】

次に、シクラメンと、紫陽花の育成を例に、本考案に係る二重植木鉢１０の使い方について説明する。まず内鉢３２内に培養土を適量収容して、シクラメン或いは紫陽花などの植物が植え付けられたら、温室、或いは、露地などに所定の間隔で多数設置し、如雨露などで水やりをして育成が行われる。この場合、植物を育生する過程で、温室、或いは、露地などに所定の間隔で多数設置した内鉢３２は、どうしても水やりによる水の跳ねや、雨などが跳ねることによって土や埃などで汚れが発生してしまう。

【００２９】

そこで本考案では、内鉢３２にて育成した植物を出荷する際、汚れた内鉢３２の、外面の汚れを簡単に落とし、予め水を含ませた保水部材５０を外鉢１２内に入れ、外鉢１２の外鉢開口部１４から更に給水を行う。このときの水量は、外鉢底壁１６から排水口２４下縁の略中間まで給水する。次に、外面の汚れを簡単に落とした内鉢３２を保水部材５０が入れられた外鉢１２内に挿入する（図１０）。このとき、内鉢３２は、外鉢１２内に挿入してしまうので、水で洗わなくても良く、また、多少汚れていても、差し支えない。

【００３０】

このとき、保水部材５０は、培養土が入れられ、植物が育成されている内鉢３２の重量によって弾性収縮し、この収縮によって保水部材５０は内鉢底壁３６を所定の圧力で下方から押圧する。保水部材５０が内鉢底壁３６を所定の圧力で押圧すると、保水部材５０は

、内鉢底壁３６に形成した複数の透孔４０を介して、内鉢３２内に入れられた培養土、或いは、植物の根に接触する。

【００３１】

これによって、外鉢１２内に入れられた水（排水口２４より下方の水）は、保水部材５０の毛細管現象により内鉢底壁３６まで上昇して、内鉢３２内の培養土へ給水されると共に、内鉢３２内に植えられた植物に供給される。即ち、植物に長期間水やりを行わなくても、萎れたり、枯れるなどと言った不都合もなく植物を栽培することが可能となる。

【００３２】

また、保水部材５０は、外鉢１２内に入れる以前に、予め水を含ませているので、保水部材５０は確実に毛細管現象で外鉢１２内の水を吸い上げることができる。これにより、植物が育成された植木鉢を出荷する際、その準備に多大な手間が掛かってしまうなどの不都合を大幅に軽減することができると共に、植物が枯れることなく長期間育成できるようになる。従って、市場に出荷した植物が萎れたり、枯れたりすることなく消費者に届けることが可能となる。尚、消費者が二重植木鉢１０で育成されている植物を購入し、室内で利用する場合には外鉢１２の下に受け皿を置き、水やりで排水口２４より溢れ出た水を、受け皿で受ければ、室内が水浸しになることがない。

【００３３】

このように、外鉢１２は、外鉢底壁１６より上方の位置に形成された排水口２４を有すると共に、内鉢３２は、内鉢底壁３６に透孔４０を有し、外鉢１２上面の外鉢開口部１４より挿入されて透孔４０が位置する内鉢底壁３６が保水部材５０に当接し、その状態で、当該内鉢底壁３６は外鉢底壁１６より所定寸法上方に支持されるので、例えば、未使用の外鉢１２を用意し、内鉢３２が保水部材５０に当接、若しくは、保水部材５０を５～１０％圧縮した時点でそれ以上落下しないような形状に外鉢１２と内鉢３２の形状を構成すれば、保水した保水部材５０を外鉢１２内に収納してその上に植物が育成された内鉢３２を挿入することにより、二重植木鉢１０で育成される植物への水やり期間を大幅に延長することができ、且つ、掃除をしなくても外観の綺麗な二重植木鉢１０を構成することができる。従って、多大な手間も掛からず、掃除をしなくても綺麗な外観の、二重植木鉢１０のままで消費者に提供することができる。

【００３４】

また、外鉢１２は、外鉢底壁１６上面の周縁部、若しくは、外鉢底壁１６上方の外鉢側壁１８内面に複数突設された支持部２０を有し、保水部材５０は弾性を有し、その上面は支持部２０の上端と同一の高さ、若しくは、それ以上の高さとされ、且つ、排水口２４の下縁は、支持部２０の上端と同一の高さ、若しくは、その付近に位置するので、外鉢１２内に挿入した内鉢底壁３６が支持部２０の上縁に当接した際、内鉢底壁３６に保水部材５０の弾性力で圧接させることができる。これにより、保水部材５０を外鉢底壁１６面に圧接させることができる。従って、保水部材５０の毛細管現象により、外鉢１２内に給水した水を、内鉢底壁３６に有した透孔４０を介して内鉢３２にて育成されている植物に給水することができる。従って、植物が萎れたり、枯れたりしてしまう不都合を長期間効果的に防止することができる。

【実施例２】

【００３５】

次に、本考案の他の実施例の二重植木鉢用外鉢１２の説明を行う。該二重植木鉢用外鉢１２は、前述の実施形態の外鉢１２と略同じ構成を有している。以下、異なる部分について説明する。尚、前述の実施の形態と同じ部分は説明を省略する。即ち、二重植木鉢用外鉢１２は、実施例１の外鉢１２と同様なものが用いられると共に、例えば一般に市販されている植木鉢、好適には、例えば廉価なポリポット或いは外観が綺麗でなく、そのままでは綺麗な植木鉢として販売し難い素焼きの植木鉢などが内鉢３２（実施例１同様の内鉢３２）として用いられる。尚、廉価なポリポット或いは外観が綺麗でなく、そのままでは綺麗な植木鉢として販売し難い素焼きの植木鉢を以降内鉢３２と称す。

【００３６】

このような、二重植木鉢用外鉢１２の保水部材収納部２２内に、水を含ませた保水部材５０を入れ、その上に植物が育成されている内鉢３２を挿入すれば、内鉢３２で保水部材５０を支持部２０まで圧縮させることができる。これにより、保水部材５０を所定の圧力で内鉢底壁３６の下面に圧接し、密着させることができるので、保水部材５０から毛細管現象により内鉢底壁３６に有した透孔４０を介して内鉢３２にて育成されている植物に給水することができる。

【００３７】

また、保水部材収納部２２内に、水を含ませた保水部材５０を入れているので、二重植木鉢１０で育成されている植物への水やり期間が延長されてしまった場合でも、植物が萎れたり枯れたりしてしまう不都合を長期間防止することができる。従って、従来のように、外鉢１２に受け皿を嵌合させる多大な手間も掛からず、内鉢３２（ポリポット或いは外観が綺麗でなく、そのままでは綺麗な植木鉢として販売し難い素焼きの植木鉢）の汚れを簡単に落とし、外鉢１２内に挿入するだけで、綺麗な外観の二重植木鉢用外鉢１２を市場に出荷することができる。

【００３８】

また、外鉢１２には保水部材収納部２２を設けているので、外鉢１２内に挿入した内鉢３２を支持部２０に当接させた状態で、内鉢底壁３６と外鉢底壁１６との間に保水部材５０を収納することができる。これにより、保水部材５０に確実に保水させることができ、内鉢３２内で育成されている植物に、保水部材５０から水を吸い上げさせることができるので、植物が萎れたり枯れたりしてしまう不都合を長期間防止することができる。

【００３９】

特に、内鉢３２に例えば廉価なポリポット或いは外観が綺麗でなく、そのままでは綺麗な植木鉢として販売し難い素焼きの植木鉢等を使用した場合でも、外観の綺麗な外鉢１２に挿入することにより、二重植木鉢用外鉢１２の外観を綺麗に見せることができる。これにより、内鉢３２で育成した植物を当該内鉢３２から出さずにそのまま使用することができるので、内鉢３２から出して一般の植木鉢に植え換える手間を省くことができ、然も、植え換える際根崩れして植物が萎れたり枯れたりしてしまうなどの不都合を確実に防止することが可能となる。

【００４０】

尚、実施例では外鉢１２の外鉢底壁１６に支持部２０を３箇所突設したが、支持部２０は３箇所に限られるものではなく、内鉢底壁３６を外鉢１２に設けた排水口２４の下縁に定置させることができ、且つ、保水部材収納部２２内に保水部材５０を収納することができれば、支持部２０は１、２箇所、或いは、３箇所以上設けても差し支えない。

【００４１】

また、内鉢３２を外鉢１２内に挿入したとき、内鉢底壁３６が略排水口２４の下縁に位置するような堅さ、及び、厚さの保水部材５０を設ければ、支持部２０を設けなくても差し支えない。また、内鉢３２の内鉢底壁３６を外鉢１２に設けた排水口２４の下縁以下に移動しないように、外鉢１２の内径と内鉢３２の外径の大きさを調整して、内鉢底壁３６が外鉢１２に設けた排水口２４の下縁に定置させることができれば、支持部２０は設けなくても差し支えない。また、支持部２０を外鉢底壁１６よりも所定距離離間した外鉢開口部１４側に設けても差し支えない。詳しくは、外鉢底壁１６より支持部２０を立設せず、外鉢底壁１６側から所定寸法外鉢開口部１４側に位置する外鉢側壁１８から中心に向かって支持部２０を延在させても差し支えない。勿論、支持部２０の上縁は排水口２４の下縁と略同じ高さとする。これにより、実施例同様の効果を得ることができる。

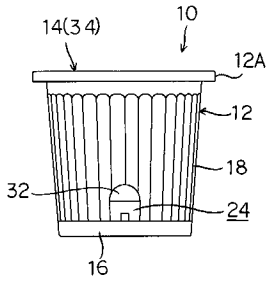
【００４２】

また、実施例では二重植木鉢１０の形状や寸法などを記載したが、二重植木鉢１０の要旨を逸脱しない範囲内で内鉢３２、外鉢１２及び保水部材５０の形状や寸法を変更しても良いのは言うまでもない。勿論本考案は、上記各実施例のみに限定されるものではなく、この考案の趣旨を逸脱しない範囲で他の様々な変更を行っても本考案は有効である。

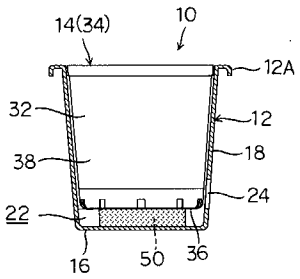
【図面の簡単な説明】

【００４３】
【図１】本考案の一実施例を示す二重植木鉢の正面図である（実施例１）。
【図２】同図１の二重植木鉢の縦断側面図（内鉢は側面図）である。
【図３】同図１の二重植木鉢の平面図である。
【図４】本考案の二重植木鉢を構成する外鉢の正面図である。
【図５】同図４の二重植木鉢を構成する外鉢の下面図である。
【図６】同図４の二重植木鉢を構成する外鉢の平面図である。
【図７】同図４の二重植木鉢を構成する外鉢の縦断側面図である。
【図８】本考案の二重植木鉢を構成する内鉢の正面図である。
【図９】同図８の二重植木鉢を構成する内鉢の平面図である。
【図１０】本考案の一実施例を示す二重植木鉢の組み立て分解図である。
【符号の説明】
【００４４】
１０　二重植木鉢
１２　外鉢（二重植木鉢用外鉢）
１２Ａ　縁部
１４　外鉢開口部
１６　外鉢底壁
１８　外鉢側壁
２０　支持部
２２　保水部材収納部
２４　排水口
３２　内鉢
３４　内鉢開口部
３６　内鉢底壁
３８　内鉢側壁
４０　透孔
５０　保水部材

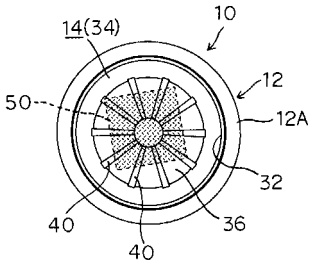
【図１】



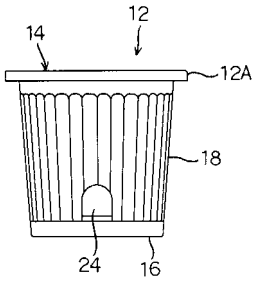
【図２】



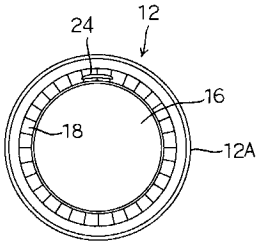
【図３】



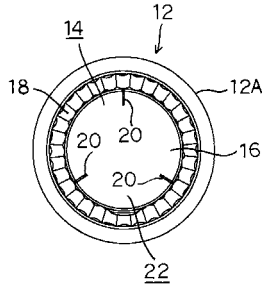
【図４】



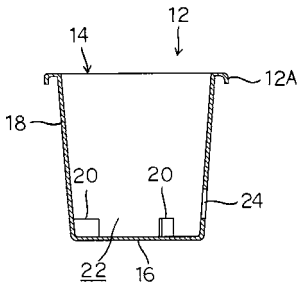
【図５】



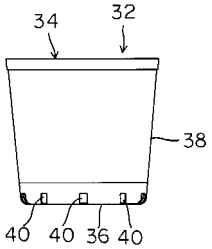
【図６】



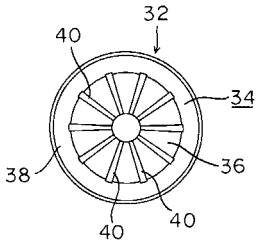
【図７】



【図８】



【図９】



【図１０】

